今　後　の　ス　ケ　ジ　ュ　ー　ル

資料３

平成２５年度下半期に実施する取り組み

春日山原始林

（１）基礎情報の充実調査

①下層植生フロラ調査

春日山原始林は、シダ類、コケ植物等、下層植生が豊かなことも特筆すべき生態的特質である。しかしながら、シカの採食による下層植生の衰退が危惧されており、近年、不嗜好植物とされていたクリンソウにも食痕が確認されている。

このことから、春日山原始林の下層植生の現状を把握するため、保全対策の実施目標を踏まえ、奈良県版レッドデータブックにリストアップされた希少な下層植生フロラ調査を実施し、分布状況及び生育状況（鹿の採食被害等）を把握する。

シカの食圧により減少傾向にあるクリンソウ群落
出典：「世界遺産春日山原始林」前迫ゆり編

②外来樹種侵入状況調査

春日山原始林には、二種の外来樹種（ナンキンハゼ、ナギ）が侵入し、広域的に拡大し続けており、外来樹種の侵入によって、春日山原始林従来の植生が壊れつつあると危惧されている。

このことから、春日山原始林への外来樹種の侵入状況を把握するため、着実に保全再生を図る箇所（目標値）を踏まえ、ナンキンハゼとナギの侵入状況調査を実施し、分布状況及び生育状況を把握する。

林冠から光が射し込み、良好な森林更新が期待できる場所が、ナンキンハゼとナギの外来樹種で優占され、従来の植生が壊れている林分

（２）実証実験の検討調査

③第１次実施箇所の設置方法の検証

④で検討する次期実施箇所において、より効果的な植生保護柵の設置を実施できるよう、第１次実施箇所の施工結果を踏まえ、設置方法（規模、設置地盤と柵杭の位置関係、景観への配慮等）を検証する。

第１次実施箇所における植生保護柵の設置工事風景

④次期実施箇所の検討

春日山原始林において着実な保全再生を行なうため、平成 26 年度以降も、植生保護柵の設置を中心とした実証実験を継続して実施していくことが望まれている。

このことから、基本計画を踏まえ、新たな実施箇所を設定する。また、平成 26 年度に次期実証実験に着手できるよう、植生調査による現況把握、植生保護柵の型式等の検討を踏まえ、その実施設計を行う。

また、併せて春日山原始林保全計画検討委員会を開催（３回）し、検討内容の充実を図る。

平成 25 年度（下半期）検討委員会の運営予定

回	開催月	議事案
第４回	H25 12 月	・基礎情報調査結果 ・設置方法の検証
第５回	H26 1 月	・次期実施箇所（案）の検討
第６回	H26 2 月	・設置方法の構築 ・実施箇所の確定

花山・芳山人工林

（３）人工林における文化財修理資材供給可能性の検討調査

⑤文化財修理資材供給可能性の検討

県内には木造建造物文化財が多数存在するが、檜皮や大径木等、修理資材の確保が不安定なため、修理工事に着手できない現状にある。平成 24 年２月には、春日大社と金峯寺連名で県知事宛に「文化財保全のための大径木育成並びに檜皮採取林設定願」が提出された経緯がある。このことから、檜皮採取可能な林齢（80 年生以上）に達したヒノキをはじめ、花山・芳山人工林のポテンシャルを活かした、文化財修理資材供給システムの構築が望まれる。平成 24 年度に実施した、檜皮採取実験の結果を踏まえ、花山・芳山地区保全・利活用部会（２回）と、取り組みを展開するための実行委員会（２回）を運営し、安定的な資材供給可能性に関する現地調査、事例調査、ヒアリング調査を実施し、今後の方向性を検討する。

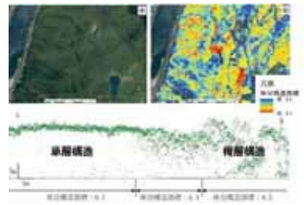
試行実験で採取した檜皮

平成２６年度への継続的かつ効果的な取り組みの実施

基礎情報の充実

○航空レーザ測量・測量結果の分析

現地踏査により、大径木等の“点”的な情報を充実した一方、中径木を含む“量”的データに基づいた森林更新の方向性を分析できるよう、“面”的な情報収集が必要とされている。このことから、微地形や樹木位置等、春日山原始林の最新の状況を“面”的な基礎情報の収集を可能とする航空レーザ測量を実施する。その測量結果を、ＧＩＳ等の地理情報システムにより分析し、階層構造や林冠の状況等、春日山原始林の現状を“面”的に把握し、定期的な更新を可能とするシステムを構築する。



航空レーザ測量結果の分析イメージ
出典：森林ＧＩＳフォーラムニューズレターVol.53

春日山原始林保全計画の策定

平成 25 年度までの検討結果を踏まえ、平成 26 年度に「春日山原始林保全計画」を策定する。なお、保全計画の策定にあたっては、具体的な保全方策の詳細をとりまとめた「実施計画」に併せて、日常的な維持管理を踏まえたマニュアルを作成する。

また、継続的な保全対策の実施を可能とする、執行体制と多様な主体の参画を促す方策を検討する。なお、保全計画の策定に向けて春日山原始林保全計画検討委員会を継続し、計３回程度開催する。

実証実験の実施（継続）（植生保護柵の設置工事、初年度モニタリング調査）

平成 25 年度までに、春日山原始林の保全・再生に向けた各種取り組みの実現、推進に資するべく具体の効果検証、課題抽出のための実証実験計画を検討する。その結果から、保全対策の実施が特に望まれる箇所（実証実験実施箇所）における植生保護柵設置工事を行う。

また、実証実験を通じて、植生保護柵の効果を検証するとともに、持続的な森林更新を促す保全方策を確立するため、５年間のモニタリング調査を実施する。植生保護柵設置完了後、モニタリング調査の初年度として柵内外を含めた調査（毎木調査、植生調査等）を実施する。

実施想定箇所（平成 25 年４月時点）

計画的な春日山原始林保全事業の実施（ロードマップ）

事業内容	平成 23 年度	平成 24 年度～25 年度（上半期）	平成 25 年度（下半期）	平成 26 年度
	○基礎調査の実施 ・既往文献調査 ・大径木、ギャップ調査 ・有識者へのヒアリング調査	○基礎調査の継続 ○方針の検討 ○実証実験の検討・実施 ※第１次実施箇所を実施 ○人工林における檜皮採取可能性の検討	**○基礎情報の充実調査** **・下層植生フロラ調査** **・外来樹種侵入状況調査** **○実証実験の検討調査（継続）** **・第１次実施箇所の設置手法の検証** **・次期実施箇所の検討** **○人工林における文化財修理資材供給可能性の検討調査**	○基礎調査の充実 ○春日山原始林保全計画の策定 ○実証実験の実施（継続） ※第２次実施箇所を実施

奈良公園基本戦略（平成 24 年２月）
「世界に誇れる奈良公園」
維　　持：①価値を守る
利 活 用：②魅力を活かす
取組体制：③県が主体的に

■ 春 日 山 原 始 林 保 全 計 画 検 討 委 員 会
※ 花 山 ・ 芳 山 地 区 保 全 ・ 利 活 用 部 会

■奈良公園植栽計画検討委員会　連携　■奈良のシカ保護管理計画検討委員会（仮称）

継続的な保全・再生事業の実施

春日山原始林の保全・再生